

中小企業振興会議 労働雇用部門会議 議事要旨

日時	令和2年11月5日（木）午前10時から午前12時まで
場所	クリエイション・コア東大阪 南館3階 研修室C
出席者	○中小企業振興会議委員5名 衣笠部会長、阿児委員、稲葉委員、西松委員、檜尾委員
	○事務局 東大阪市都市魅力産業スポーツ部労働雇用政策室 大西室長、久保室次長、兵頭主査

会議の経過は以下のとおり。

【質疑・意見要旨】

案件（1）新型コロナウイルス感染症による影響 について事務局より説明。

- **（部会長）** ハローワークでの状況はどうか。
- **（委員）** 去年までは企業から人手不足の悩みを聞いていたが、今年は求人が減って、対前年比で4月、5月で3割ほど減少した。6月は少し持ち直したが、7月に第2波が来て、7月、8月で、また3割ほど下がった。9月は若干落ち着いて10%台（の減少）で留まっているものの、企業はコロナの先の状況が掴めず、見通しが立てられず、なかなか動きづらい状況である。一方、求職者の方は、企業が雇用調整助成金の活用により休業させて、留まっている状況だと思うが、ハローワーク布施管内の4月以降9月までの半年間で、昨年は5,700人ほどが受給の手続きをされたが、今年は1,000人多い6,700人ほどの状況となっている。
- **（部会長）** 積極的に採用を行っているわけではないという状況か。
- **（委員）** 企業にとっては、コロナで影響は受けているものの、全てが落ち込んでいるわけではなく、業態によっては実績をあげている企業もある。普段、去年までは応募がなかった職種でも、この時期だから採用できるかもしれないという期待を持って、求人を出す企業もある。
- **（部会長）** 説明の中にあつたマッチングの問題。今だからこそ積極的に採用したいと考える企業もあり、そこで求職者側も新しいところに目が行けば。そこで課題となるのが、対面での合説（合同企業説明会）が実施できないこと。
- **（事務局）** 例年は6月ごろに実施していた新卒者を対象とした合同企業説明会を、感染症対策を行いながら10月27日に実施した。例年は100人弱ほどの来場だったが、今年度も100人の参加があった。また、10月14日に開催した女性向けの合説も54名と、例年とあまり変わらない。
- **（委員）** 外国人がたくさん採用されていた頃があり、帰国する期限は決まっていたが、現在は、入国できないという問題が出てきて困っているところもある。外国人の比率が非常に多かったので、日本人の比率を上げたいという意見もある。

案件（2）学生向けアンケート について事務局より説明。

- **（部会長）** 大学では、1年生からワンデイでのインターンシップの参加を推奨している。ワンデイで良いということを経験センターでは伝えていて、気軽に行って経験をして学ぶということを推奨している。
Web面接の悩みで、些細なことだが、Zoomで、視線をどこに向けたらよいか分からないということを経験センターから聞いた。
コロナの自粛期間中に、大学に来られない時期が長かったので、経験センターではな

くて、ハローワークを利用する学生が増えたように思う。

- **(委員)** ハローワーク布施の窓口で増えたという感覚はないが、梅田に新卒応援ハローワークというのがあって、大阪府下全域を対象としているので、専門的な話になると、そちらに誘導している。3年前ほどの話だが、グループディスカッションがけっこう増えていて、それを体験できる所がなくて、そのセミナーをすると参加者が多かった。
- **(部会長)** 学生は、梅田や三宮など、学生向けの所に行きたがるようだ。安心できるのでは。
- **(委員)** 学生は、あまり知識も経験もない。企業からしても、何をしたいか分からない学生が多い。地元の企業を視野に入れているケースは少ない。親に相談しても、テレビでCMしている企業にしなさいと言われてたりする。
- **(部会長)** 探し方がわからない。Webで就活サイトを使うと、大企業から目が行き、地元中小企業にはなかなか。
- **(委員)** 元々は、大手志向はあまり強くないと思う。賃金面や、休日や福利厚生面での条件を見て、近年、中小企業を志望する学生が増えている。
- **(部会長)** 私生活を大事にする世代というか。転勤もなるべくしたくないというのをよく聞く。
- **(委員)** 残業も多くない、有給もちゃんと使える、福利厚生面を大事にする。
- **(部会長)** そういう企業をどうやって選んだら良いが、学生自身が分からない。就活サイトに出てこないの。
- **(委員)** マッチングがなかなか難しい。良い会社はいっぱいあるが、職人気質の会社だと、アピール力が全然足らなかつたりする。会議所や市役所でフォローしてもらえれば喜ばれると思う。
- **(部会長)** もったいない。時期が遅くなると、学生が気づかないまま決めてしまうことがある。本当は自分に合う中小企業が地元にあるかもしれないのに、気付かないまま通り過ぎてしまっている気がする。次期が早い段階では、採用計画が立てられないというのが中小企業の実情なのか。
- **(委員)** 根本的に、かなりアピール力が足りない会社が多いのではないかと。発信をしない、ハローワークに求人を出すだけで終わる。
- **(部会長)** 知り合いの企業が、企業のホームページにインタビュー動画を載せたら、急に学生からの電話が増えたそう。動画を作るのには、外部に頼んだのでお金はかかったが、効果があったのでやって良かったと言っていた。
- **(委員)** 介護事業所で、求人にも苦労している所が、雰囲気や、スタッフの様子などの動画をホームページにアップしたら、採用が進んだと聞いた。それを自前で作成したそうだが、なかなかアットホームな良いものができていた。働いた後のイメージが付きやすい。社内の様子がわかるような動画などは、すごく効果的だと思う。
- **(部会長)** IT関連の助成金などの情報は、各企業に伝わっているものなのか。
- **(事務局)** 他課の事業であるが、訪問員が直接企業を訪問してお知らせしている。また、会社毎の困り事に対応できるような専門員がいたり、ホームページにリンクを貼ったりしている。

案件（3）企業向けアンケートについて 事務局より説明。

- **(部会長)** 中小企業動向調査で、コロナによるマイナスの影響があるということだが、直

接の影響があるかどうかと問うたのか。

- **(事務局)** マイナスの影響がある、マイナスの影響がない、今後マイナスの影響がある可能性がある、という選択肢。次にマイナスの影響があると答えられた方に対しては売り上げ減少率について聞いている。さらに売り上げの減少の要因について、少し詳しく聞いている。
- **(部会長)** 8月時点で、不安に感じている企業が多い。これが、今後の採用活動にどれくらい長期的に影響してくるか。具体的に数字が回復してくれば、人材確保に積極的に動く企業も増えると思うが。
- **(委員)** コロナ禍の影響についてということで、マイナスの影響だけの集約になっているが、コロナ禍で考えられなかった、例えばゲームとか、自粛で家の中にいることで、思っていなかったところで忙しくなった業種もあると思う。そういう業種の紹介というのは、そういうところを知っておくことも、雇用の流動化につながる。働いていない人が働くのに、コロナ禍の影響でこんなところが人手不足になっているという情報を出していくことが、流動性を加速させるために必要かと思う。
- **(事務局)** 一部ではあるが、感染症対策の商品を集約して、紹介しているものもある。
- **(部会長)** 情報を、いかに効果的に、仕事を探している人に到達させることができるかが課題。
- **(委員)** コロナの影響で、マイナスの影響だけでなく、忙しいところに雇用を流すような働きかけが必要なのでは。

案件（4）企業向け支援について 事務局より説明。

- **(委員)** 市内企業の魅力アピールということで、広く内外に、広報媒体を作成して発信しているということだが、どのような手段で配布しているのか。例えば、合同企業説明会ではアピールするのに効果的であるということはおわかったが、そもそも合同企業説明会をするという情報を、どのような手法で、東大阪市内の企業に行き届かせているのか。
- **(事務局)** 合同企業説明会の企業の募集については、登録している企業に送付している中小企業日より、労政ニュース。また、共催している商工会議所の商工月報などで行っている。
- **(委員)** 先程から、東大阪市内にどのような企業があるかわからない、認知度を高めていくという話がでていますが、こういった広報媒体を学生や市民に対して、どのように発信しているのか。
- **(部会長)** 欲しい情報までが短い距離でたどり着かないと見なくなってしまう。簡単に手に入ると、見てみようかとなる。
- **(事務局)** 先ほどの資料では冊子を中心に説明したが、他課では他にも動画も作っていて、ホームページで紹介したりしている。冊子については数に限りがあるので、ホームページから見てもらえれば。
- **(部会長)** 窓口は1つで、簡単に見ることができるというのが理想。例えば学生が新卒で入ってもらわないといけないのではなく、他の仕事を経験して転職するときに、東大阪に良いイメージをもっていたり、中小企業で家から近いところで働くことを良いなと感じたりして、それで来てもらったり、それも視野にいれておきたい。

案件（5）提言書について 事務局より説明。

- **(委員)** 情報発信が、一番、市役所で求められている。実際、民間で一番情報発信しているのがSNSの中でもInstagram。特に若者、女性向けにはインスタになってくるのでは。中高年はFacebook。あとは、LINEとか、動画YouTubeとか、そういったことが効果的であるかと思う。市役所でいろいろ行っている情報が、いろんなことをやっている割には行き届いていない。
- **(委員)** 東大阪市のニュースに限定したサイトがある。そこに、東大阪市のやっている中小企業に対する支援とか、就職支援とか、いろいろな情報を1つにまとめて、リンクを貼ってもらえれば。
- **(委員)** 新しいニュースがどんどん更新されているということは、見る人が多いと思う。そういうところで東大阪市のアピールができれば。
- **(委員)** また、企業向けの取り組みの中で、企業にも東大阪市の（魅力アピールについての）取り組みを知らせるのが良いのでは。そのことで、企業側から載せてほしいという逆アプローチがあれば、市側もたくさんの多種多様な企業があるということを知ることができる。
- **(部会長)** いろいろな情報をバラバラに受けるのではなく、一堂に受ける方が良いと思う。
- **(部会長)** 情報提供という意味では、企業同士が情報を知っていくというのも、情報提供に含まれる。
- **(事務局)** 例えば、セミナーなどで自企業の好事例や先進事例などを紹介してもらったりしている。
- **(部会長)** 市として環境を整えていくのが一番かと思う。提供となると一方的なイメージがある。情報を提供することで、環境が整うというイメージで。今後の方向性について、昨年度までは、経済環境が良くなっていくという話だったので、正社員での採用というのが念頭にあったが、解雇されている方は非正規が多い。今後の採用に関して、短時間正社員の話が以前あり、正社員にこだわるわけではないが、非正規はどのようになっているのか、共通認識は持っておいた方が良い。
- **(事務局)** 正規で働きたいが、非正規で働いていることは問題であると考え。非正規を望む人が非正規で働くのは、多様な働き方ということで良いと思う。
- **(委員)** 人手不足になったから、正社員として雇うのに躊躇するのは、以前からずっと同じだが、社会保険料の問題。雇用保険料はそんなに高くないが、社会保険料、健康保険、厚生年金の会社負担が大きいので、会社は契約社員であるとか、非正規での雇用を望んでしまう。新規に雇った人の社会保険料を一定期間免除して欲しい。正規雇用の援助としては一番大きい。
- **(委員)** コロナの影響で、働き方も変わっていき、今後の方向性もかなり大きく変わってくると思うので、そのことを全く載せないで方向性を書くのはどうかと思う。
- **(事務局)** 今後、10年間の第3次実施計画に合わせていく提言書なので、確かに、短期的な変化もあるが、この経験を基にテレワークが進んだり、IT化が進んだり、今後10年、20年続いてく変化もあると思う。
- **(部会長)** コロナ禍で、短期的には不況の影響。長期的には、そこから派生してくる労働環境の変化を加味して、全体に散りばめる感じで取り入れていくように。
- **(委員)** 参考2の表現では、働く意欲を持っている人だけに限定するというイメージができてしまう。そうすると、働く「意欲」までは持っていないが・・・という人にとっては、

取り残されるイメージがある。働く意欲を持ってもらえるようにするのも目的。

- **(部会長)** 2つ目の「働く意欲を持つ人」というのが、もっと範囲を広げるべき。「意欲」という文言を再考すること。